

相模湾・駿河湾への暖水波及の確率 前駆現象からの検討

暖水波及による急潮予測の検討材料として神津島の潮位の上昇その後起こる波勝崎沖水温の上昇及び湾内への暖水の駿河湾奥への波及について、06年暮れから07年1月にみられた事例を本誌310号で紹介しましたが、今回は神津島の潮位の上昇さらに波勝崎沖水温の昇温が同時に見られた時に、どの位の確率で相模湾・駿河湾に暖水の流入が見られたかを検討したので、簡単に紹介します。

検討に使用したデータは01年3月から07年7月までの観測結果で、神津島の潮位は海上保安部のホームページより入手し、実測潮位を気圧補正し、潮汐変動を取り除いた値を用いました。

ここで、波勝崎沖の昇温の規定は、当期間の日平均水温の前日差、前々日差前々々日差を求め、この値がそれぞれ平均値 $+2.5 \times$ 標準偏差にあたる1.1、1.6、2.0のいずれかの値以上の昇温が観測されたときには昇温現象であると判断しました。

さらに、その後の相模湾・駿河湾への暖水の流入状況はNOAA画像、一都三県魚海況情報、湾内水温観測記録などで検討、判断しました。

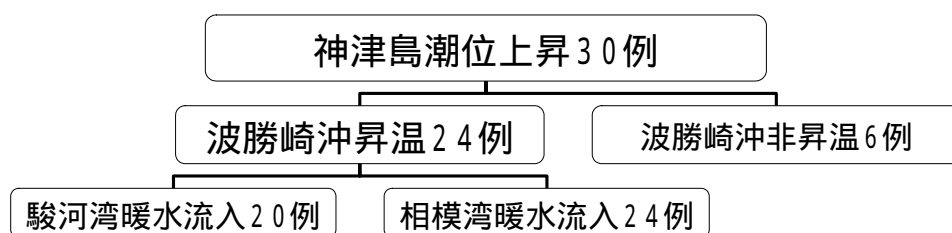
この結果から、当期間で神津島の潮位が上昇したと考えられた事例を30例抽出し、この時の波勝崎沖の水温変化、相模湾・駿河湾内への暖水波及の有無を追跡しました。

この結果を第1図に示しました。

抽出した神津島の潮位上昇30例の内、その後波勝崎沖の水温変化で昇温が認められたのは24例でその確率は80%で6例は昇温がみとめられませんでした。

昇温が認められた24例中その後駿河湾に暖水が流入したのは20例でその確率は83%、相模湾に暖水が流入したのは24例で100%の確率で暖水が波及しました。以上の結果から神津島の潮位が上昇し、この後に波勝崎沖での昇温が見られた場合はかなりの確率で相模湾、駿河湾に暖水が波及してくることが数字のうえからも確認されました。

今回検討に使用した判断材料はインターネット上で見られますし、一方で、高精度海況図も毎日配信されていますので、急潮を中心に海況の短期変動に合わせて利用できるものと考えられました。
(藤田信一)



第1図 相模湾、駿河湾における暖水流入の前駆現象としての神津島潮位および波勝崎沖水温の適合事例数

